



↑初出場し、Cランクベスト4に残った竹島明穂さん(18歳・北九州市)。「福智町スタッフのみなさんのあたたかい対応に感謝しています」と白い歯をみせ「早く世界ランクに上がりたい」と福智町からスタートした目標を語ってくれました。

### ジャパンオープン 車いすテニス大会



### 福智町国際交歓会

↓会場に設けられた車いすの整備コーナー。激しい動きでゆるんだ部分の補修や空気圧調整などを専門スタッフがすばやく対応します。選手にとって車いすのコンディション確保は勝敗を左右する重要なポイント、整備に余念がありません。



# 車いすテニス世界最高峰の大会、福智は「ふれあい」のメイン会場に。



2006 飯塚国際車いすテニス大会が、飯塚市をメイン会場に5月16日～21日の日程で開かれました。国際テニス連盟公認の四大大会、最高峰のスーパーシリーズに昇格して3年目、22回を数える今大会に、12か国の海外37選手を含む154人が参戦。世界ランク上位がそろい、高レベルの試合が繰り広げられました。福智町では旧金田町の取り組みを引き継ぎ、サブ会場としてB・Cクラス準決勝までの試合を開催。連日の雨で屋内競技場での開催を余儀なくされましたが、将来世界進出が期待される選手など50人の熱戦が展開されました。

5月19日に同会場で行われた国際交歓会には、約千人の住民が集まって選手たちを歓迎。浦田弘二町長が「新しい福智町によろこそ！」と力強い第一声を放ち「大会の活気を新町のまちづくりに生かしたい」とあいさつした後、特設ステージでは、スピーチやダンス、獅子舞、和太鼓、舞踊などが披露されました。選手たちは商工会青年部などボランティア団体が愛情込めて作ったおでんや焼きそばを味わいながら、子どもたちのサインの求めにも気さくに応じるなどコミュニケーションを深めました。最後は、外国人選手も交えた炭坑節の総踊りとし金田子ども山笠の披露でしめくり、福智の夜を会場全体で楽しみました。

金田町とカナダの選手の交流をきっかけに始まった交歓会は、今年で16回目。大会もボランティア主導で行われました。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。



↑方城和太鼓に挑戦。リズム感もよく「ノリノリ」でした。  
↑輪になって炭坑節の総踊り、心の和も広がりました。

↓子どもたちが求めるサインに快く応じてくれた選手たち。

↓言葉が通じなくても心が通ったひとときでした。

↓「また来てね」列になって見送った交歓会。

5月16日から20日までの5日間、福智町屋内競技場でBクラスシングルス28試合・ダブルス12試合、Cクラスシングルス18試合・ダブルス8試合を開催。飯塚市のメイン・セコンドラングの試合に劣らないラリーを展開しました。



↑小松春義議長の首頭で乾杯。約2時間にわたる絶え間ないステージと会話を楽しみました。

→交歓会だけでなく、試合進行もボランティアスタッフが行います。運営の原動力です。

→「あのプレイはよかったね」試合の合間にもコミュニケーションが深まります。

